

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 自然・生活教育学系 准教授

氏 名 佐藤ゆかり

研究期間 平成29年度～平成30年度

研究プロジェクトの名称	科学的素養の育成を視座とした家庭科授業実践に関する研究
研究プロジェクトの概要	我が国の学校教育では、子ども達の理数科目等に関する学習への関心を高めつつもその裾野を広げること、ICTの技術発達が急速に進む社会の中で、技術に対する科学的素養を全ての子どもに育んでいくこと等が求められている。本研究では、技術に対する科学的素養を子供に育むことができる教師の育成に資することを目的とするものである。
研究 成 果 の 概 要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>平成 29 年度</p> <p>上記目的のために、(1)分身ロボットを導入した教育実践及び教育実践研究の現状と課題の整理、(2)分身ロボット開発者及びその利用者等による専門的知識の供与の機会を設ける等を行った。(2)では、講演会等として行い、学内外からの参加を可能とし、その参加者を対象に ICT 及び分身ロボット導入に関する調査を行った。内容は次のとおりである。(①講演・トークセッション:「ロボットがくある・いる」社会を共に生きていく子どもたちの教育を考える」、開催日:2017年11月26日、会場:上越教育大学、講演者:オリィ研究所 吉藤健太郎氏、トークセッション登壇者:吉藤健太郎氏、川崎直哉学長、林泰成副学長②講演:「どうしたら子どもの日常生活に寄り添った教育・支援・研究ができるのだろうか〈WheelLog!〉〈EyeMot〉開発者伊藤史人氏から学ぶ」、開催日:2017年12月25日、会場:上越教育大学、講演者:島根大学機会・電気電子工学部助教 伊藤史人氏)</p> <p>平成 30 年度</p> <p>平成 29 年度の研究で得たデータ等の整理・分析を行い、科学的素養を子どもに育むことができる教師教育を行うために、家庭科教育では、日常生活をどのように捉えるか、科学技術の発達が生活の質の向上にどのように寄与するのか等の内容を改めて検討し、学習内容に反省させることが求められる等の結果を得た。また、ICTを用いた教育では学校における Wi-Fi 環境が課題としてあげられた。</p>
研究成果の発表状況	日本家政学会第70回大会ポスター発表(「科学的素養育成のための家庭科教育の課題」)、日本家庭科教育学会北陸地区会第35回大会口頭発表「ロボットがくある・いる」社会を共に生きていく子どもたちの教育」を家庭科はどう考えるか)を行った。
学校現場や授業への研究成果の還元について	研究の成果を論文等として公表していくとともに、大学の授業及び教員免許状更新講習などの機会において、その成果を還元していく。